

【収支見通しに対する実績（単位：千円／税抜表示）】

（令和6年度期末実績見込を推計するに当たっての基本的な考え方）

- 令和6年度中間期実績をもとに推計をしています。
- 医業収益は、令和6年度中間期実績に前年度伸び率（令和5年9月末から令和6年3月末までの伸び率）を反映させた額を計上しています。
- 医業外収益は、予算額を計上することを基本としていますが、医業外収益のうち他会計負担金は令和6年度中間期時点で確定的に見込める額を計上しています。
- 特別利益は、令和6年度中間期時点の額を計上しています。
- 医業費用は、令和6年度中間期実績に前年度伸び率（令和5年9月末から令和6年3月末までの伸び率）を反映させた額と、令和5年度最終予算現額に対する執行率を反映させた額を比較し、高い額を計上することを基本としていますが、医業費用のうち減価償却費と資産減耗費は予算額を計上しています。
- 医業外費用は、「支払利息等」「長期前払金消費税勘定償却」「雑損失」で構成されています。支払利息等は令和6年度中間期時点で確定的に見込める額を、長期前払金消費税勘定償却は予算額を、雑損失は各費用の期末期末実績見込額をもとに簡易的な消費税計算により算出した額を計上しています。
- 特別損失は、「過年度損益修正損」と「その他特別損失」で構成されています。過年度損益修正損は令和6年度中間期時点の額を、その他特別損失は予算額を計上しています。

款・項・目・節	R4年度	R5年度	R6年度				自己点検 (取り組みの効果や課題等)
	実績	実績	経営計画 収支見通し	中間期 実績	期末期 実績見込	期末期 実績	R6年度中間期
病院事業収益	13,655,237	12,867,591	12,826,881	6,360,496	13,536,969		<p>○医業収益のうち入院収益は、経営計画におけるR6年度の収支見通しである70億9千万円に対して、約6.4億円増収の77億3千万円となる見通しである。主な要因として、「総合入院体制加算3の取得」「新規入院患者数の増加」「高点数の手術増加に伴う入院単価が高い患者の増加」が挙げられる。特に、整形外科において脊椎センター・人工関節センター開設以降、脊椎手術及び人工関節手術の件数が大幅に増加していること、泌尿器科において前立腺の悪性腫瘍手術（ロボット支援手術含む）件数が増加していることなどが、1人1日当たり入院収益の増加の要因となっていると分析している。また、増加する手術件数、緊急手術などに必要に応じた迅速な手術が実施できる体制整備を進めている。 （新規入院患者数）R6中間期実績：5,441名、R5中間期実績：4,998名 443名増 （手術件数）R6中間期実績：1,913件、R5中間期実績：1,646件 267件増 （1人1日当たり入院収益）R6中間期実績：68,560円 R5中間期実績：65,890円 2,670円増</p> <p>○医業収益のうち外来収益は、経営計画におけるR6年度の収支見通しである38億9千万円に対して、約5千万円増収の39億4千万円となる見通しである。主な要因として、注射料の増加（難病治療薬や抗がん剤）などによる1人1日当たり外来収益の増加が挙げられる。また、従前から実施している診療所訪問に関して、過去の実績等の分析結果から、効率的かつ効果的な訪問計画を作成し、それに基づき実施したことが紹介数の増加につながったものと分析している。 （1日当たり外来患者数）R6中間期実績：893.5人、R5中間期実績：878.0人 15.5人増 （1日1人当たり外来収益）R6中間期実績：17,412円、R5中間期実績：17,182円 230円増</p> <p>○診療報酬の査定率改善の取り組みとして、毎月、委託事業者との打ち合わせを実施し、事務的な改善や診療科との協力により、中間期査定率は0.33%と前年度最終査定率0.32%とほぼ変わらない状況である。ICT導入による改善は事務的な改善を目的としているためほぼ限界に達していることから、診療科との協力による改善に注力していく。</p> <p>○未収金回収業務に関しては、6年度上半期の過年度分収納率は25.7%（5年度上半期は40.7%）、6年度上半期の現年度分収納率は95.2%（5年度上半期は94.1%）。R5年度は現年度収納率が高かったため未収金額が過去3年間平均の半額（約3,100万円（R2年度～4年度までの平均は約6,100万円）であったが、過年度回収率は前年度の56.9%となり、妥当な回収率と分析している。現年度収納率については、若干低めの推移であり、未収金とならないよう、病棟、患者支援センターと連携し、納付相談をこまめに実施しており、下半期も同様の取り組みを実施する。</p> <p>○そのほか、その他医業収益として、人間ドック事業については、R6年度上半期390件（R5年度上半期421件）と減少傾向であるが、下半期に延びる傾向がある（R5年度下半期480件）ことや、鎮静下での内視鏡検査の件数を診療科と協議の上、1日2件だった上限を3件に変更することで受け入れ数を増加させる対策を実施し、収益確保に努めている。</p> <p>○これらにより、収益全体（病院事業収益）は、経営計画におけるR6年度の収支見通しである128億3千万円に対して、約7億1千万円増収の135億4千万円となる見通しである。</p>
医業収益	10,646,875	11,037,378	11,307,145	5,820,772	11,999,518		
うち入院収益	6,631,380	6,867,100	7,091,950	3,746,277	7,727,593		
うち外来収益	3,701,753	3,817,875	3,890,991	1,928,116	3,937,367		
医業外収益	2,982,489	1,796,150	1,519,736	530,953	1,528,680		
うち補助金	1,629,318	448,453	33,960	0	34,414		
うち他会計負担金	1,015,841	984,266	1,004,449	491,462	995,680		
特別利益	25,873	34,063	0	8,771	8,771		
病院事業費用	12,536,913	13,253,908	13,393,502	5,473,770	13,874,654		
医業費用	11,834,701	12,152,357	12,796,497	5,333,414	13,068,682		
うち給与費	6,276,873	6,327,047	6,630,153	2,605,417	6,549,540		
うち材料費	2,685,897	2,887,229	2,943,275	1,560,451	3,105,155		
うち薬品費	1,542,804	1,719,546	1,752,607	888,357	1,749,097		
うち診療材料費	1,101,253	1,099,257	1,142,022	630,846	1,257,780		
うち経費	2,232,495	2,267,733	2,324,816	1,146,589	2,470,206		
うち委託料	1,485,570	1,525,792	1,530,499	784,374	1,685,414		
うち減価償却費	605,314	602,682	862,521	0	900,941		
うち資産減耗費	7,025	36,024	9,405	0	9,405		
医業外費用	641,582	677,280	597,005	49,252	712,549		
特別損失	60,630	424,271	0	91,104	93,423		
經常収支	1,153,081	3,891	▲ 566,621	-	▲ 253,033		
經常収支比率	109.2%	100.0%	95.7%	-	98.2%		
（最終）損益	1,118,324	▲ 386,317	▲ 566,621	-	▲ 337,685		
（最終）収支比率	108.9%	97.1%	95.7%	-	97.5%		

※他会計負担金は、全額を「医業外収益、うち他会計負担金」に計上しています。